

2027年度 医師研修 募集要項



- 2 沿革／設立の目的とその使命
- 4 理事長ごあいさつ
- 5 病院長ごあいさつ
- 6 国立がん研究センター中央病院の人材育成
- 7 データで見る中央病院
- 8 研修に関連する情報
- 10 新専門医制度・施設認定
- 12 連携大学院制度
- 14 研修制度概要
- 17 研修に関連するQ&A
- 18 研修課程・診療科紹介
- 97 シニアフェローからのメッセージ
- 101 フェローからのメッセージ
- 106 シニアフェロー募集要項
- 108 フェロー募集要項
- 110 フェロー（短期コース）募集要項
- 112 専攻医（基幹施設型・連携施設型）募集要項
- 114 採用試験日程
- 115 交通案内

history

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来しました。国立がん研究センター（2010年4月1日、独立行政法人化により名称変更）は、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。（2015年4月1日、国立研究開発法人国立がん研究センターに名称変更）



設立時の建物



外来診療棟竣工（1978年）



研究棟竣工（1981年）



東病院と次世代外科・内視鏡治療開発センター



中央病院新棟竣工（1998年）



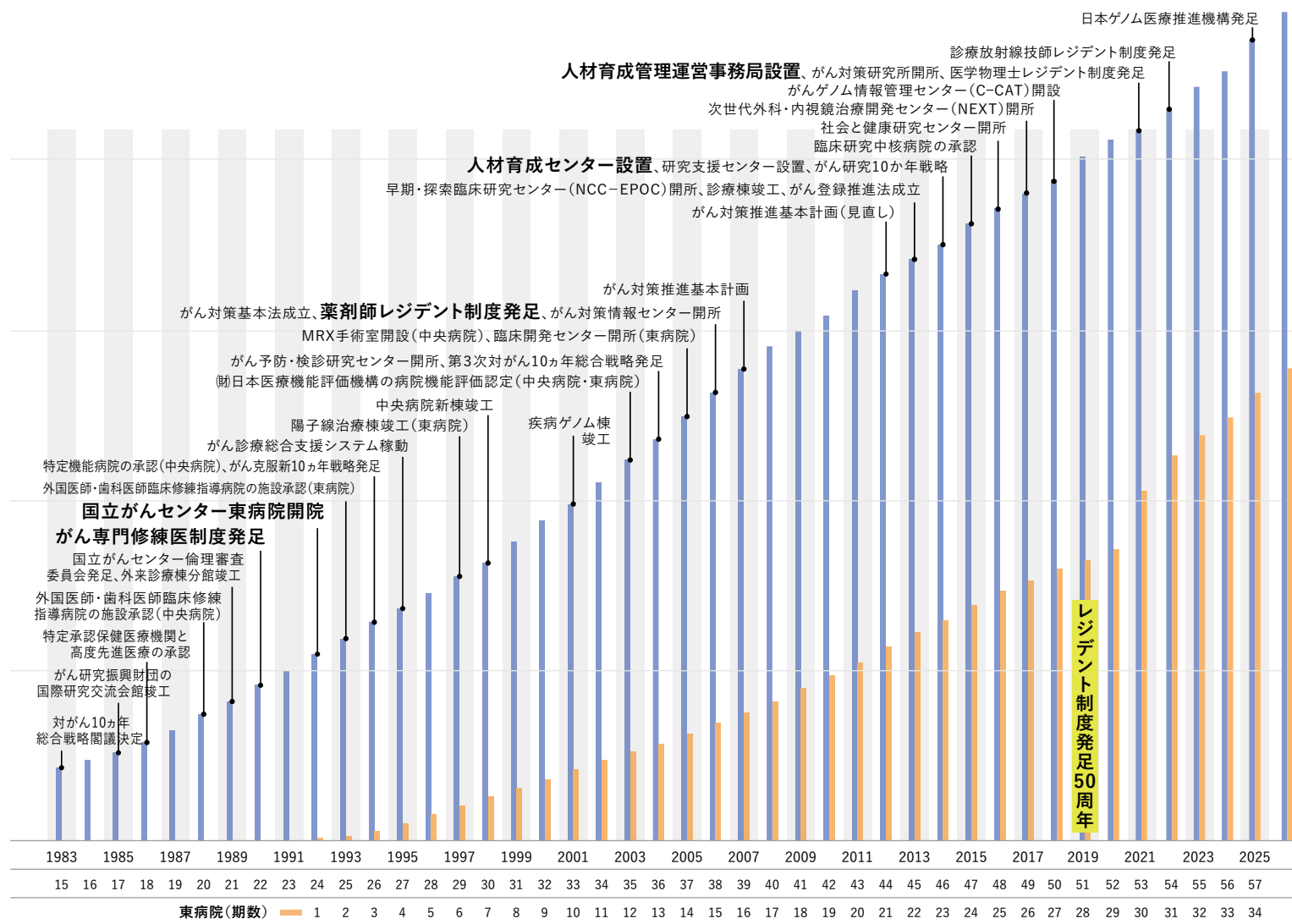
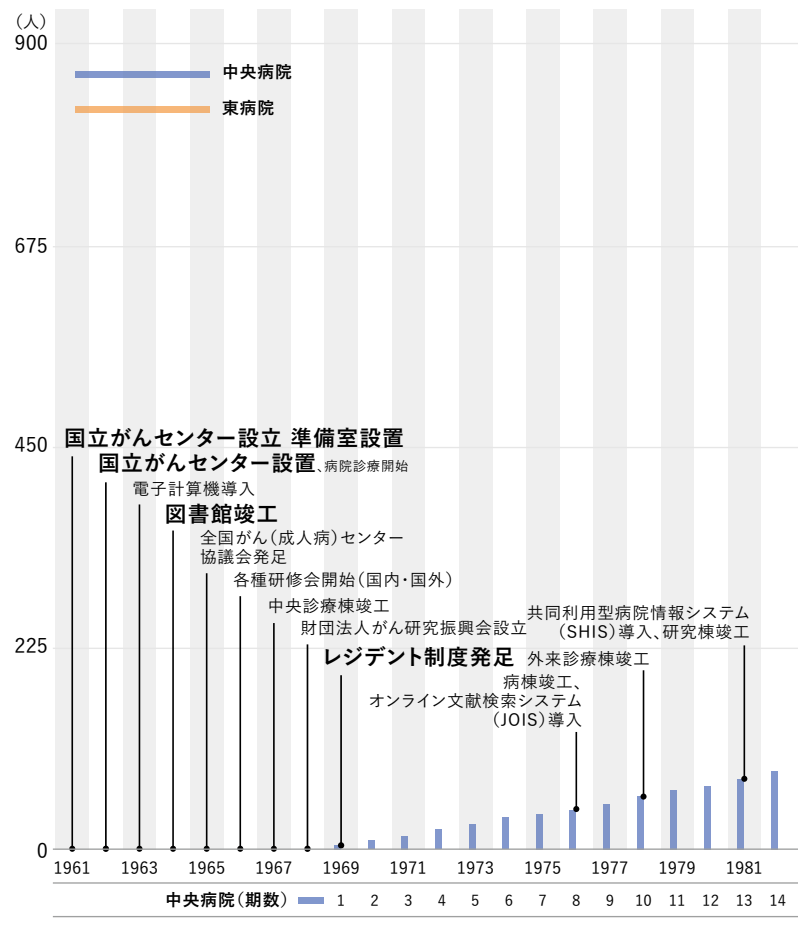
研究棟新棟竣工（2017年）



「癌」の文字から「疒」（ヤマイダレ）を取り除き「品」とし、これを図案化したものです。（1970年制定）

国立がん研究センターのシンボルマークの3つの輪は、(1) 診療 (2) 研究 (3) 教育 をあらわしています。
外側の大きな輪は患者・社会との協働を意味します（2014年）。

研修制度のあゆみ



Novel, Challenge and Change All Activities for Cancer Patients ごあいさつ

国立がん研究センターは、1962年に東京築地に創設されました。以来、60年以上にわたり、わが国のがん医療の中核機関として日本のがん医療とがん研究を牽引する役割を担い続けています。

東京の築地キャンパスでは、がんの画期的な診断・治療法を実現してきた「中央病院」、がんの基礎研究に革新的な成果を挙げてきた「研究所」、がんの予防・早期発見の開発に加えて、政策提言および最新のエビデンスの迅速な普及と実装を担う「がん対策研究所」が一体となって、アカデミックセンターを形成しています。千葉県の柏キャンパスには「東病院」があり、陽子線治療棟、緩和ケア病棟などに加え、2017年5月には次世代外科・内視鏡治療開発センター（NEXT）が開設されました。中央・東両病院ともに特定機能病院として、高度な医療・医療技術の開発や研修機能が期待されています。また、築地・柏両キャンパスの病院と連携して最先端の開発研究を推進する「先端医療開発センター（EPOC）」、基礎研究と臨床現場からのシーズを臨床開発へと展開する「橋渡し研究推進センター（CPOT）」も併設されています。築地・柏両キャンパスでは、個々の患者さんに最適化された医療を提供する「Precision Medicine（最適医療）・がんゲノム医療」の推進にも精力的に取り組んでおり、2018年には築地・柏両キャンパスの病院が、がんゲノム医療中核拠点病院に指定され、がんゲノム情報管理センター（C-CAT）も設立されました。

教育・研修に関しても様々な取り組みを進めています。東京大学、京都大学、東京科学大学、慶應義塾大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学等との連携大学院制度を取り入れ、リサーチマインドを持ち、幅広い知見を備えた臨床医の育成を目指しています。中央病院・東病院それぞれに人材育成センターが設置されており、臨床と基礎および開発研究の双方向の連携を強化するPhysician Scientist制度も導入し、若手の医師・研究者の育成体制を一層強化しています。また、病院と研究所が併設されていることも当センターの特徴といえ、臨床の現場で生じた疑問を研究所と一緒に解明することも可能です。国立がん研究センターは、将来の日本のがん医療・がん研究を担う人材を育成するための組織として常に進化し続けています。

研修制度は、体系的にがん医療を学び、がん専門医を養成する制度として1969年に創設され、1990年からは高度専門的な研修を行うがん専門修練医制度も取り入れてきました。国立がん研究センター研修制度開始から50年以上が経った現在、次の50年を見据えて教育施設としての機能に磨きをかけ、これまで以上に多くのがん診療、研究に携わる方のキャリアアップや個々の能力を引き出すための人材育成に貢献し、がん医療の向上を目指したいと考えています。

本募集要項を手になされている皆様は、私たちと同じ目標に向かい、同じ道を歩もうとされているのだと思います。がん患者さんに最適な医療を提供するために貢献されたいという皆様の思いに、センターが丸となって応えて行きたいと考えています。がんを克服するために世界最高の技術と知識を身につけたいと努力する者が互いに協働することにより、より大きな力となり、がん克服という目標に更に近づくことが可能になると信じています。最高の診療・研究環境、そして教育病院としての経験を兼ね備えた国立がん研究センターで、リサーチマインドを兼ね備えたがん医療の専門家としての、確かな一歩を踏み出してください。

皆様が国立がん研究センターの研修制度を通じて大きく飛躍され、これからの新しいがん医療創生に寄与することを願ってやみません。



国立がん研究センター 理事長
間 野 博 行

Novel, Challenge and Change All Activities for Cancer Patients ごあいさつ

国立がん研究センター中央病院は、国立がん研究センターの一員として1962年の開設以来“社会と協働し、全ての国民に最適ながん医療・がん予防を届ける”という理念のもと、がん診療・研究のリーディング・ホスピタルとしての役割を果たしてきました。質の高い、ハイボリュームな診療・研究を提供しており、世界的にも高く評価されています。

高度のがん医療の研修を、効率よく有効に行うためのレジデント制度は、体系的にがん医療を学びがんの専門医を養成する制度として1969 年に発足し、50年をこえる歴史ある制度です。この間に、より高度で専門的ながん教育を提供し、研究もできるがん専門医を育成する目的で、1990年にがん専門修練医制度が発足しました。2026年7月からは名称をフェロー（旧レジデント）、シニアフェロー（旧がん専門修練医）に一新して、引き続きがん医療をけん引する人材の育成に取り組んでまいります。その他、メディカルスタッフの研修制度としては2006年に薬剤師レジデント制度、2021年、医学物理士レジデント制度、2022年、診療放射線技師レジデント制度が開始されており、チーム医療の発展にも力を入れています。がんに関連する専門医の取得はもちろんのこと、慶應義塾大学、埼玉医科大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学などとの連携大学院制度もあり、フェローやシニアフェロー在籍中に学位を取得することも可能です。

中央病院では、より効果があり、かつ安全な薬剤の開発のため、医師主導治験を含め多くの治験、特定臨床研究を行っています。また内視鏡手術や先進的なロボット手術に加え、世界でもトップクラスの内視鏡センターやIVR（Interventional Radiology）センターでは、AIだけでなく全ての技術を集約しより低侵襲な医療の開発に取り組んでいます。その一環として、「ロボット手術・開発センター」が設置されています。また伝統的に高難度な血管合併切除再建を伴う手術や、マイクロサージャリーによる再建を要する手術も経験することが可能です。

また各領域の第一人者による充実した指導を厳しくも、家庭的な雰囲気の中、直接受けることができること、全国より集まる同じ志を持った優秀な同僚と一緒に研修できること、全国でがん診療をけん引している多くの国立がん研究センター出身の先輩たちと交流する機会があること、このような修練する間に得られた人間関係の蓄積は一生の財産になると信じます。私自身も1992年、胃外科のシニアフェローとして1年間過ごしました。その時の経験、修練が今の自分を支えているといっても過言ではありません。

皆さんのような意欲に満ちた、優秀な人材なくしては、日本のがん医療の将来はありません。皆様方と一緒に、がん患者さんに最高の医療を提供し、そして明日のより良いがん医療を創っていきましょう。



国立がん研究センター 中央病院長
瀬 戸 泰 之



国立がん研究センター中央病院の研修制度は、当院の創設とほぼ同時に始まり、日本最古のがん専門研修制度の一つとして、50年以上にわたり次世代のがん医療を担う医師たちを育ててきました。この制度からは、多くのがん診療や研究のリーダーが輩出されており、OB・OGは全国のがんセンターや大学で活躍し、日本のがん医療の中核を担っています。

当院の研修プログラムは、3年・2年のフェローコースに加え、シニアフェローコースや短期コース、連携大学院コースなど、多彩な選択肢を用意しています。どのコースも、あなたのやる気と意欲次第で、最先端の診療や研究に深く関わることが可能です。最新の医療設備や豊富な症例数、経験豊かな指導者陣のもとで、確かな知識と高度な技術を身につけることができます。また、全国から志を同じくする優秀な仲間と共に研修できる環境は、あなたの成長を加速させる大きな魅力です。さらに、連携大学院制度を利用すれば、研究成果に基づく学位取得も実現可能です。

2021年から2026年にかけては、Newsweek誌の世界優秀病院ランキング「Oncology 部門」で日本一に選ばれるなど、国内外から高く評価されています。将来、がん診療や研究に情熱を持つ若手医師にとって、最適な研修環境と成長の舞台を提供できると確信しています。

教育担当副院長
金光 幸秀

国立がん研究センター中央病院人材育成センターは、がん医療の未来を担う人材育成をそのミッションのひとつとするナショナルセンターにおいて、教育・研修の円滑な実施を担当する組織として運営されています。医師のみならず、薬剤師、看護師、各種技師等の様々な医療スタッフの、専門職としての成長を支える継続的な教育・研修を提供しています。

人材育成に注力する際に、一時的な研修や医療現場の努力に委ねるのではなく、恒常的な専門部署が責任をもって推進する組織を有することは重要です。特にながれ専門医の養成においては、専門医機構が実施する基本領域専門医制度に基づく専攻医の先生方の受け入れからはじまり、サブスペシャリティ領域の専門医や技術認定まで、若手医師の皆様のキャリア形成に貢献できるように尽力しています。さらに、築地キャンパスに存在する研究所等とも連携し、臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究に携わり、その成果に基づき連携大学院制度等を利用して学位取得を目指す等の、研究活動の支援にも注力しています。

人材は組織の礎であり、人を育てることは未来への最大の投資です。国立がん研究センター中央病院人材育成センターは、若手医師の皆様が、がん領域で次世代を担う人材として飛躍するために、不断の努力を続けてまいります。

人材育成センター長
堀之内 秀仁

2024年4月～2025年3月



診療

Medical Care

がん診療のリーディングホスピタルとして多くの患者さんが全国から通院されており、ハイボリュームセンターの役割を全うしています。

A highly specialized center, we serve a large population of cancer patients. Cancer patients from throughout the nation come to us, a leading hospital in cancer medicine.

外来 Outpatients

15,721人 364,128人
初診 First visit 再診 Return visit

セカンドオピニオン Second opinions

3,845件 189件
対面 In person オンライン(全て希少がんに対応) Online (rare cancer consultations)

入院 Inpatients

514.9人 9.6日
入院患者数(1日平均) Daily inpatients 入院平均在院日数 Average stays in days

外来治療 Outpatient treatment

42,010件 209.5件
外来抗がん剤治療件数(注射剤) Outpatient chemotherapies 通院治療センター症例数(1日平均) Patients are treated daily at Outpatient Treatment Center

手術 Surgeries

5,582件
うち 鏡視下手術数 Endoscopic 1,231件
うち 内視鏡手術件数(検査・処置・治療を含む) Endoscopic procedures (including examinations/treatments) 23,243件
うち ロボット手術数 Robot-assisted 666件

放射線治療 Radiotherapy

1,596人
放射線治療新患者数(先進医療含む) Radiotherapy new patients

IVRセンター Interventional Radiology Center

8,071件
IVRセンター治療件数 Interventional Radiology / Endoscopy Treatments

検診センター Cancer Screening Center

2,435人
検診センター総受診者数 Screened patients at Screening Center

患者支援 Patient support

15,806件 52,510人 2,751件
がん相談支援センター相談件数 Cancer support center 患者サポートセンター利用人数 Patients served at Patient Flow Support Center 希少がんホットライン相談件数 Phone consultations on Rare Cancer Hot Line

研究

Research

がん研究において日本一の企業治験・医師主導治験を誇り、国内外のがん研究を牽引しています。

Largest number of industry-sponsored clinical trials and IITs, serving research within and beyond Japan.

治験 Clinical trials

71件 うち MASTER KEY プロジェクト MASTER KEY Project
医師主導治験実施症例数 Investigator-initiated clinical trials 25件
119件 医師主導治験実施症例数 Investigator-initiated clinical trials 17件
企業治験実施件数 Clinical Trials sponsored by companies 105件
99件 First in Human (FIH) 試験実施件数 First in Human (FIH) Clinical trials 国際共同治験新規試験数 International trials

JCOG Japan Clinical Oncology Group

186機関 参加医療機関(47都道府県をカバー) Participating hospitals (all over Japan) 3,400人 年間登録患者数 Annual patient enrollments 67,000人以上 累計登録患者数 Accumulated total patient enrollments
507件 累積論文数 Accumulated total publications 155件 がん診療ガイドライン採択論文数 Number of papers cited in cancer clinical guidelines

患者申出療養 Patient-Proposed Healthcare Services

成人対象 For adults 13施設 実施施設 Medical institutions 8社 21医薬品 対象医薬品 Eligible drugs
小児対象 For pediatric use 5施設 実施施設 Medical institutions 6社 9医薬品 対象医薬品 Eligible drugs

バイオバンク Biobank

共同研究数 Joint research 93件 研究機関 Research institutions 31件 企業 Industry partners
73件 バイオバンク試料を用いた研究による論文数 Number of papers based on research using biobank samples
採取数 Number of samples 1,051症例 5,937症例 提供数 Number of samples provided 1,336症例 4,078症例
凍結組織 Frozen tissues 凍結組織 Blood collected for research 凍結組織 Blood collected for research

教育

Education

がん専門病院だからこそできる専門性の高い人材を育成しています。

Highly specialized training provided, only possible at NCC Hospital.

155人 レジデント数(コメディカル、専攻医含む) Residents (including co-medical staff and doctors) 約6,300件 診療・教育カンファレンス数 Medical / Educational Conferences
134人 海外からの受け入れ人数 Visitors from overseas

職員数

Staff

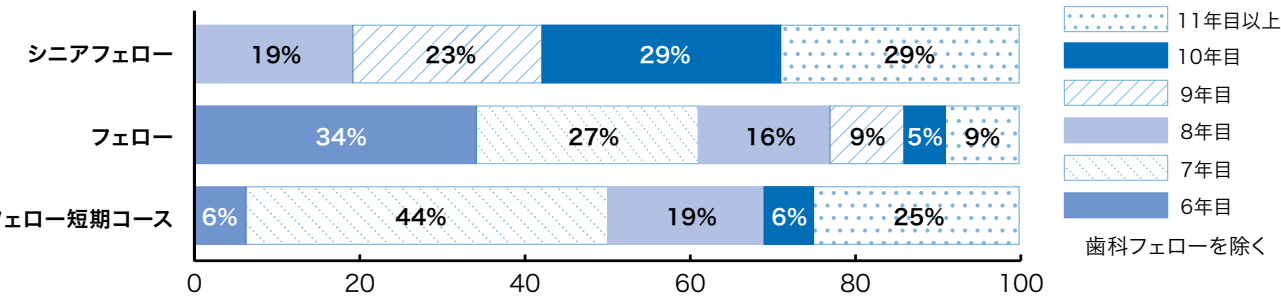
専門性の高い人材が中央病院を支えています。

Highly specialized professionals support our services.

職員数(常勤/2025年4月1日時点) Staff (Full-time / April 1, 2025) 337人 730人
医師 Physicians 看護師 Nurses
1,479人 合計 total うち 18人 うち 41人
専門看護師 certified 認定看護師 Professional

研修に関連する情報

入職時卒後年数（2026年4月在籍者）

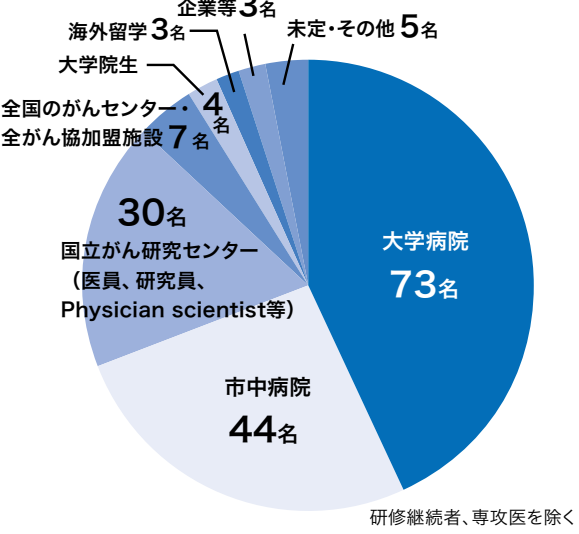


研修期間中の業績（2023年度～2025年度修了者）

	2023年度	2024年度	2025年度
	45名	46名	30名
論文（英文）	40本	47本	39本
論文（和文）	9本	20本	14本
国際学会	32回	39回	28回
国内学会	142回	185回	141回

フェロー短期コース、専攻医を除く

研修後の進路（2023年度～2025年度）



研修後の異動先

（2015年度～2025年度）



院内施設



フェロー・レジデント用宿舎／研修室

希望者には病院に直結した院内宿舎が貸与され、研修や研究に専念しやすい環境が整備されています。（単身用）
宿舎費は1か月あたり10,000円から15,000円（共益費3,000円、水道光熱費別）です。
宿舎に入居しない場合は、研修机とロッカーが利用できます。



保育園

病院敷地内に院内保育園が完備されており、延長保育、夜間保育、休日保育、一時保育などに対応が可能な体制にあります。
当院フェローは男性73%、女性27%の割合で、研修期間中の妊娠・出産に対するサポート体制もあります。
男女問わず、育児と仕事の両立がしやすい研修環境です。



図書館

図書館では、がん診療・研究活動を支えるため、資料を広く収集して環境を整備しています。
フェローの先生方は UpToDate®、Web of Science®、Cochrane Library®、医中誌®、医書jp®、メディカルオンライン® などの主要データベースを自由に利用可能です。
診療中の疑問の解決から、論文作成、学会発表、研究活動まで、質の高いエビデンスにいつでもアクセスできます。

OA機器室

電子カルテ端末、PC、複合機などが設置され、フェローの先生方はいつでも自由に利用できます。また、別途WEB会議用の部屋やノートPCの貸し出しも行っています。



Facebook

教育・研修等に関する情報を随時掲載しています。
<https://www.facebook.com/CancerEducation/>



新専門医制度

今後変更となる可能性もあります。

●基本領域

国立がん研究センター中央病院は、以下の領域で【**基幹施設**】となっています。

領域	診療科	連携施設
皮膚科	皮膚腫瘍科	愛知医科大学病院 岡山大学病院 川崎医科大学附属病院 久留米大学病院 慶應義塾大学病院 高知大学医学部附属病院 神戸大学医学部附属病院 国立がん研究センター東病院*
		佐賀大学医学部附属病院 静岡県立静岡がんセンター 筑波大学附属病院 東京科学大学病院 名古屋大学医学部附属病院 宮崎大学医学部附属病院*

国立がん研究センター中央病院は、以下の領域で【**連携施設**】となっています。

領域	診療科	基幹施設
外科	乳腺外科 呼吸器外科 食道外科 胃外科 大腸外科 肝胆脾外科	愛知医科大学病院 香川大学医学部附属病院 鹿児島大学病院 亀田総合病院 九州医療センター 杏林大学医学部付属病院 慶應義塾大学病院 さいたま赤十字病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 聖マリア病院 東京科学大学病院 東京慈恵会医科大学附属病院 東京大学医学部附属病院 東京都立墨東病院 東北大学病院 日本赤十字社医療センター 防衛医科大学校病院
	腫瘍内科 呼吸器内科 消化管内科 内視鏡科(消化管) 内視鏡科(呼吸器) 肝胆脾内科 血液腫瘍科 造血幹細胞移植科 緩和医療科 先端医療科 頭頸部・食道内科	永寿総合病院 NTT東日本関東病院 岡山大学病院 沖縄県立中部病院 亀田総合病院 北里大学病院 杏林大学医学部付属病院 久留米大学病院 慶應義塾大学病院 神戸市立医療センター中央市民病院 国立国府台医療センター 国立国際医療センター 国立長寿医療研究センター 滋賀医科大学医学部附属病院 静岡赤十字病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 湘南鎌倉総合病院 聖マリアンナ医科大学病院 聖路加国際病院 高松赤十字病院 帝京大学ちば総合医療センター 同愛記念病院 東海大学医学部付属病院 東京医療センター 東京慈恵会医科大学附属病院 東京慈恵会医科大学附属柏病院 東京大学医学部附属病院 東京都済生会中央病院 東京都立駒込病院 東京都立墨東病院 虎の門病院 長野赤十字病院 名古屋医療センター 日本医科大学付属病院 日本医科大学武蔵小杉病院 日本赤十字社医療センター 福島県立医科大学附属病院 藤沢市民病院 三井記念病院
脳神経外科	脳脊髄腫瘍科	東京大学医学部附属病院(関連施設は複数あり)
眼科	眼腫瘍科	東京大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科	頭頸部外科	岡山大学病院 杏林大学医学部付属病院 熊本大学病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 東海大学医学部付属病院 東京医科大学病院 東京大学医学部附属病院 東邦大学医療センター佐倉病院 長崎大学病院 横浜市立大学附属病院

領域	診療科	連携施設
放射線科	放射線診断科 放射線治療科	国立がん研究センター東病院 東京大学医学部附属病院 山梨大学医学部附属病院
		国立がん研究センター東病院 国立国際医療センター 国立成育医療研究センター 埼玉小児医療センター 聖路加国際病院 東京医療センター 東京都健康長寿医療センター 東京都済生会中央病院 東京病院 獨協医科大学埼玉医療センター JR東京総合病院
臨床検査	臨床検査科	国立がん研究センター東病院

*連携予定

領域	診療科	基幹施設
形成外科	形成外科	岡山大学病院 杏林大学医学部付属病院 東京科学大学病院 東京大学医学部附属病院 日本医科大学付属病院
	泌尿器科 後腹膜腫瘍科	東京慈恵会医科大学附属病院 虎の門病院
産婦人科	婦人腫瘍科	国立国際医療センター 千船病院 東京科学大学病院
整形外科	骨軟部腫瘍・ リハビリテーション科	慶應義塾大学病院 国際医療福祉大学市川総合病院＊ 昭和大学病院 東京女子医科大学病院
	皮膚腫瘍科	愛知医科大学病院 岡山大学病院 川崎医科大学附属病院 久留米大学病院 慶應義塾大学病院 高知大学医学部附属病院 神戸大学医学部附属病院 佐賀大学医学部附属病院 筑波大学附属病院 東京科学大学病院 名古屋大学医学部附属病院 横浜市立大学附属病院
精神科	精神腫瘍科	慶應義塾大学病院 国立精神・神経医療研究センター 東京大学医学部附属病院
放射線科	放射線診断科 放射線治療科	岩手医科大学附属病院 関東労災病院 北里大学病院 群馬大学医学部附属病院 国際医療福祉大学成田病院 国立がん研究センター東病院 国立国際医療センター 埼玉医科大学国際医療センター 自治医科大学附属病院 順天堂大学医学部附属浦安病院 順天堂大学医学部附属静岡病院 聖マリアンナ医科大学病院 千葉大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院 名古屋大学医学部附属病院 山梨大学医学部附属病院
	病理	病理診断科
麻酔科	麻酔・集中治療科	岡山大学病院 神戸大学医学部附属病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 昭和大学病院 東京女子医科大学病院 東京大学医学部附属病院 東邦大学医療センター大森病院 山口大学医学部附属病院＊

*連携予定

●サブスペシャルティ領域

国立がん研究センター中央病院は、日本専門医機構が認定している 32 領域のうち以下の領域に対応しています（見込み含む）。

▼消化器内科 ▼呼吸器内科 ▼血液 ▼消化器外科 ▼呼吸器外科 ▼乳腺外科 ▼がん薬物療法 ▼消化器内視鏡 ▼放射線診断 ▼放射線治療

認定医・専門医研修施設の認定

国立がん研究センター中央病院は、各種認定医・専門医研修施設として認定されています。

- 日本内科学会
- 日本外科学会
- 日本医学放射線学会
- 日本胃癌学会
- 日本遺伝性腫瘍学会
- 日本インターベンショナルラジオロジー学会
- 日本核医学会
- 日本カプセル内視鏡学会
- 日本眼科学会
- 日本感染症学会
- 日本肝臓学会
- 日本肝胆脾外科学会
- 日本がん治療認定医機構
- 日本緩和医療学会
- 日本形成外科学会
- 日本血液学会
- 日本呼吸器学会
- 日本呼吸器内視鏡学会
- 日本産科婦人科学会
- 日本産科婦人科内視鏡学会
- 日本耳鼻咽喉科学会
- 日本集中治療医学会
- 日本消化管学会
- 日本消化器がん検診学会
- 日本消化器外科学会
- 日本消化器内視鏡学会
- 日本消化器病学会
- 日本小児血液・がん学会
- 日本食道学会
- 日本心身医学会
- 日本心身医学会・日本心療内科学会合同
- 日本腎臓学会
- 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
- 日本整形外科学会
- 日本総合病院精神医学会
- 日本大腸肛門病学会
- 日本胆道学会
- 日本超音波医学会
- 日本頭頸部外科学会
- 日本乳癌学会
- 日本脳神経外科学会
- 日本肺癌学会
- 日本泌尿器科学会
- 日本皮膚科学会
- 日本病理学会
- 日本婦人科腫瘍学会
- 日本放射線腫瘍学会
- 日本麻酔科学会
- 日本輸血細胞治療学会
- 日本臨床栄養代謝学会
- 日本臨床検査医学会
- 日本臨床細胞学会
- 日本臨床腫瘍学会
- 呼吸器外科専門医合同委員会

最新の施設認定状況については病院HPでご確認下さい。



連携大学院制度

「学位」が取得できる画期的な連携大学院制度

国立がん研究センターは、慶應義塾大学、埼玉医科大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学、それぞれと連携協力のための協定書を締結し、「連携大学院制度」を導入しております。

2012年度から開始しているこの連携大学院制度は、フェローなどの臨床研修期間中に、国立がん研究センター内で研究活動にも取り組み、その成果をもって学位の取得ができるという画期的なものです。国立がん研究センター内でも一部の授業科目の単位の修得を可能とするなど、連携大学院生の負担を軽減しつつ、十分な臨床研修・研究活動を行う環境を整備し、がんを専門領域とする若手医師が研究に取り組むことができる万全の態勢を整えています。2018年度からは学位取得を目指す方を対象とした連携大学院コースも設定しました。

連携大学院制度は、リサーチマインドを持ち幅広い知見を持った臨床医を育成していくことを目的としています。多くの方がこの制度を利用することを期待しております。

【連携大学院制度の出願について】

すべての研修医に適用されるものではありませんので、研修コース・診療科によっては連携大学院制度をご利用いただけない場合があります。出願を希望される方は必ず下記までお問い合わせください。

連携大学院制度についてのお問い合わせ kyoiku-resi@ncc.go.jp

連携大学院制度による学位取得者数（国立がん研究センター全体）

制度開始からこれまでの14年間で、合計215名の先生方が学位を取得されています。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学位取得者	14名	25名	14名	23名	23名	32名

連携大学院生 人数（中央病院シニアフェロー・フェロー）

シニアフェロー・フェローとして在籍する医師の約20-30%が連携大学院制度を利用しています。
連携大学院コース選択者以外でも、連携大学院生となって学位取得を目指すフェロー等は多くいます。
入職後、1-2年経ってから連携大学院に入学することも可能です。

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
シニアフェロー	当院在籍者	36名	38名	35名	32名	31名
	連携大学院生	11名	9名	9名	11名	8名
フェロー	当院在籍者	86名	81名	79名	73名	87名
	連携大学院生	23名	26名	27名	20名	8名

●連携大学一覧

慶應義塾大学

1・2年次は慶應義塾大学信濃町キャンパスで講義を受講しながら、国立がん研究センターで臨床研修や研究活動を行います。研究内容としては、4年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されています。カリキュラムや入学試験等については、慶應義塾大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

入学試験要項 <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/grad/doctoral/med/>
履修案内・講義概要 <https://www.students.keio.ac.jp/sn/gsmed/class/registration/doctor.html>



埼玉医科大学

埼玉医科大学大学院医学研究科博士課程「連携大学院臨床基礎医学」では、国立がん研究センターで診療・研究に従事したまま、国立がん研究センター所属の連携教員や埼玉医科大学教員の指導を受け、国立がん研究センターでの研究成果で学位申請していただけます。e-learningやWebを十分活用した講義や、演習・実習を組み合わせた多彩な分野の履修が可能です。埼玉医科大学には3つのキャンパスがあり、それぞれに特徴を持った多彩な基本学科が設置されており、幅広い分野の専門家が多数在籍し、がん関連領域の手厚い研究指導も受けることができます。また、関東次世代のがん専門医療人養成プラン（がんプロ）のコースを取得できます（e-learning講義）。カリキュラムや入学試験情報は下記HPをご参照ください。

埼玉医科大学ホームページ <https://www.saitama-med.ac.jp/>
埼玉医科大学大学院ホームページ https://www.saitama-med.ac.jp/education/grad_med/



順天堂大学

順天堂大学にて開講されるコアプログラム（短期集中の基礎教育科目、数週間の実践教育科目や、主に夜間開講の大学院特別講義（Web配信によるビデオオンデマンドでの受講も可）など）を受講しながら、国立がん研究センターが開講する専門プログラム（専門講義、演習・実習や研究活動）を受講します。研究内容としては、4年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されており、国立がん研究センター内での研究成果を学位論文とすることが可能です。カリキュラム・入学試験等については、順天堂大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

カリキュラム <https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/doctor/curriculum/>
電子シラバス <https://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/>
入試概要 https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam_graduate/med/doctoral/outline/



東京慈恵会医科大学

東京慈恵会医科大学にて開講される共通カリキュラム（必修科目は原則平日18時以降、または土曜日に開講し、1年間で修了に必要な単位の取得が可能。選択科目は1科目3日～4日間程度の集中授業の他、e-learning科目も有るため必要単位を全て在宅で取得することも可能）を受講しながら、国立がん研究センターで臨床に従事したまま研究活動を行います。研究内容は連携大学院教員の指導のもと、選択カリキュラムとして基礎研究や臨床研究で成果をあげ、学位取得を目指します。カリキュラムの概要や入学試験日程等については東京慈恵会医科大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

<https://www.jikei.ac.jp/graduate-school/medicine-doctoral/>



長崎大学

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、国立がん研究センターと連携して、医療科学専攻に「包括的腫瘍学分野」を設けています。この包括的腫瘍学分野で研究指導を受ける学生は、専攻の枠を越えた多様な科目を、講義室やオンデマンド、リアルタイムオンラインで受講することができます。そのため、学生は長崎大学に通学することなく、国立がん研究センターで演習や研究指導を受けながら学位を取得することも可能です。包括的腫瘍学分野における研究では、がんの本態解明や予防などの基礎研究から、診断・治療や病態生理といった臨床研究、がんサバイバーシップや個別化医療開発といった応用まで、がんに関わる幅広いテーマが扱われています。

大学院ホームページ <https://mdp.nagasaki-u.ac.jp/>
入学希望の皆さまへ <https://mdp.nagasaki-u.ac.jp/admission/>



日本医科大学

日本医科大学大学院医学研究科は、基礎から臨床まで一貫したがん研究を展開し、多くの国立がん研究センター出身者が第一線で活躍する人材育成に最適な環境です。ICTを活用した教育体制が特徴で、履修科目の97%をe-Learningで受講でき、関東次世代のがん専門医療人養成プラン（がんプロ）も取得できます。特色ある研究を場所を問わず柔軟に進められ、国立がん研究センターでの研究成果を基盤に、4年間で学位取得を目指すことが可能です。詳細は以下HPをご参照ください。

日本医科大学大学院医学研究科ホームページ <https://www.nms.ac.jp/college/gradschool.html>



※前述の大学以外の大学院に在籍されている方も、現在の在籍先の承認が得られれば当院で研修が可能です。



研修制度概要

	当センターにおける医師レジデント等の呼称を、以下のとおり変更いたしました。		
【呼称変更のお知らせ】	がん専門修練医 レジデント（3年・2年・短期コース）	→ →	シニアフェロー フェロー（3年・2年・短期コース）

シニアフェロー " 各領域のリーダーを目指す "

がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としています。指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践します。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度です。

対象者	原則として当センターフェロー（レジデント）修了者、またはサブスペシャリティ領域専門医取得相当の医師、または同等の能力を有する医師 ※シニアフェロー（がん専門修練医）経験者の再応募は原則不可
研修期間	2年間
研修課程	● シニアフェローの臨床系他科のローテーションは原則不可とする。 事前申請により承認されたローテーションカリキュラムについては、各診療科のプログラムページにて確認すること。 ● 原則として第1学年を臨床、第2学年を研究にあてる。研究とは臨床研究を指すが、希望により研究所での基礎的な研究を申請することもできる ● シニアフェローは申請すれば外来診療を行うことができる。外来ブースには限りがあるため、最終的には教育・研修に関する委員会で調整を行う

フェロー（3年コース・2年コース） " 国立がん研究センター教育・研修制度の中核 "

複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指します。我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事することにより、日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度です。2年コースについては研修開始時期が選択可能です。

対象者	原則として基本領域専門医取得相当の医師 ※シニアフェロー（がん専門修練医）・短期コースを除くフェロー（レジデント）経験者の再応募は原則不可
研修期間	3年間または2年間
研修課程	● ローテーションは原則3か月単位とし、それぞれのコース毎に定めるカリキュラムに従う。具体的には、個人の経験やコースの特殊性を考慮し、フェロー教育責任者等と協議して決定する。調整を行う必要が生じた場合は、原則として教育・研修に関する委員会等の審議を経て決定する ● 入職後1.5年目までにCCM(Critical Care Medicine)と呼ばれるICU(集中治療室)・Oncologic Emergency 研修および緩和医療研修を必修とする。必修期間は別表のとおりとする

連携大学院コース

既に研究開始の準備ができていてる方を対象として、連携大学院制度を活用し、診療研修と同時に、研究活動を早い段階から開始できるコースです。

対象者	フェロー2年コースに準ずる
研修期間	4年間（フェロー2年+シニアフェロー2年）
研修課程	フェロー2年コース および シニアフェローに準ずる ※シニアフェローへの採用には再度試験を行う

高度技能医コース

既に一定の手術経験を有する方を対象として、他の医療機関では得られない更に高度な手術手技を習得できるコースです。

対象者	フェロー3年コース・2年コースに準ずる
研修期間	5年間（フェロー3年+シニアフェロー2年）または4年間（フェロー2年+シニアフェロー2年）
研修課程	フェロー3年コース・2年コース および シニアフェローに準ずる ※シニアフェローへの採用には再度試験を行う

フェロー（短期コース）

がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応するための研修制度です。研修開始時期は4月、7月、10月、1月から選択可能です。

対象者	原則として基本領域専門医取得相当の医師 ※シニアフェロー（がん専門修練医）・フェロー（レジデント）経験者の再応募は原則不可 ※フェロー（レジデント）短期コース経験者は通算18か月以内であれば再応募可
研修期間	6か月から18か月まで
研修課程	● ローテーションは原則3か月単位とし、それぞれのコース毎に定めるカリキュラムに従う。具体的には、個人の経験やコースの特殊性を考慮し、フェロー教育責任者等と協議して決定する。調整を行う必要が生じた場合は、原則として教育・研修に関する委員会等の審議を経て決定する ● CCM(Critical Care Medicine)と呼ばれるICU(集中治療室)・Oncologic Emergency研修および緩和医療研修を必修とする。必修期間は別表のとおりとする

専攻医コース（基幹施設型・連携施設型）

新専門医制度のもと、当センターで基本領域の研修を希望される研修者を対象としたコースです。皮膚科・放射線科・病理・臨床検査の4領域で基幹施設となっています。詳細は各科のページをご覧ください。また、連携施設として、各プログラムに沿った研修が可能です。新専門医制度(基本領域・サブスペシャリティ領域)への対応状況は10-11ページもご参照ください。

任意研修

1日以上の任意の期間で研修できる制度です。処遇、手続き等が通常のフェロー制度とは異なるため、希望される方は下記までお問い合わせください。

任意研修についてのお問い合わせ kyoiku-resi@ncc.go.jp

CCM研修、緩和医療研修 必修期間

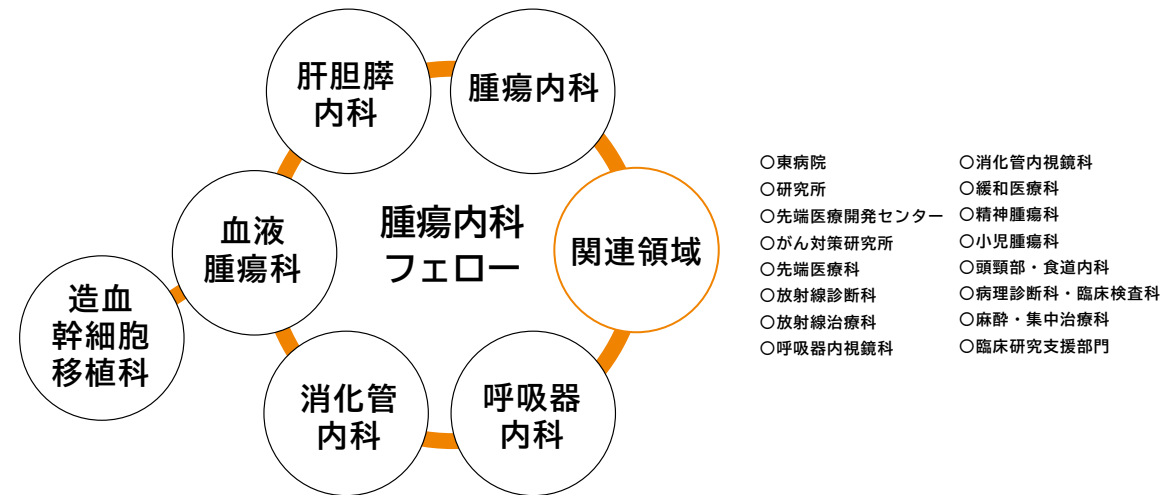
研修期間	外科・外科系 フェロー	内科・内科系 フェロー	※ CCM 研修 Critical Care Medicineと呼ばれるICU・Oncologic Emergency研修のこと 病理診断科、臨床検査科、歯科、臨床研究支援部門の各コースでの研修者を除き、フェローは必修とする 精神腫瘍科フェロー短期コース、遺伝子診療部門フェロー短期コースでの研修者は選択制とする 夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）
6か月	なし	なし	
6か月超	CCM1か月	CCM1か月	
1年超	CCM2か月	CCM2か月、緩和1か月	
2年超	CCM3か月	CCM2か月、緩和1か月	※緩和医療研修 内科・内科系フェローは必修とする 内視鏡科(呼吸器・消化器)、放射線診断科、外科・外科系、歯科、臨床研究支援部門の各コースでの研修者は選択制とする 後期ローテーションにおいては緩和医療（在宅を含む）研修のみ選択可能

交流研修

必要と認められる場合には、以下に定める施設において研修（交流研修）を受けることができる。

● 東病院 ● 研究所 ● 先端医療開発センター ● がん対策研究所 ● 中央病院人材育成センター運営委員会（研修・教育に係る委員会）において認められたセンター外の施設	交流研修の期間は以下を原則とする。 （所属部署・受入先部署間の調整および委員会での承認が必要） ● シニアフェロー……6か月以内 （シニアフェロー2年目の研究研修は12か月以内とする） ● フェロー3年コース …6か月以内 ● フェロー2年コース …3か月以内 ● フェロー短期コース 要相談 期間はそれぞれ1か月以上とする。
--	--

内科総合 フェローコースのイメージ



がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが50年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍内科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

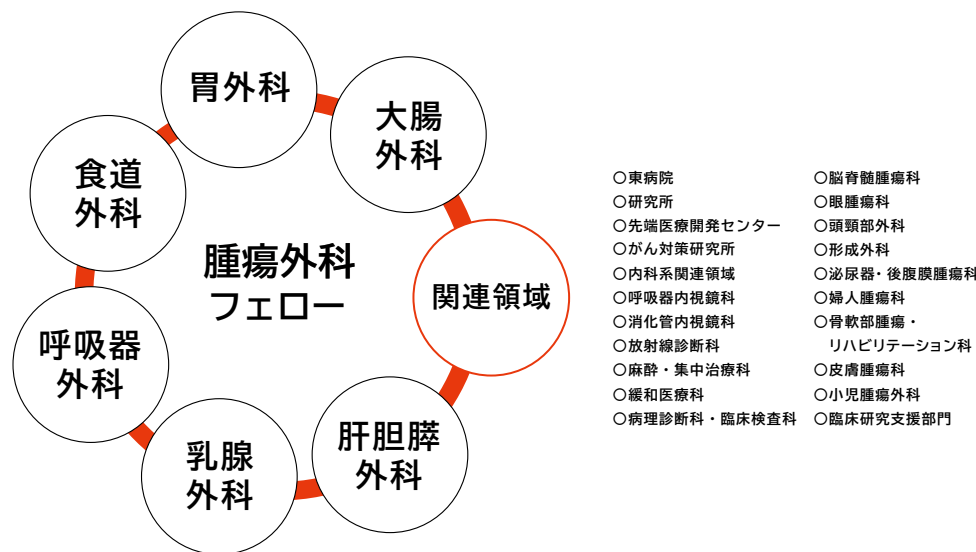
ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（緩和医療、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍内科研修を行います。

選択研修

フェローコースでは、自らの選んだ選択研修を組むことが可能です。

外科総合 フェローコースのイメージ



がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが50年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍外科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（病理、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍外科研修を行います。

選択研修

フェローコースでは、自らの選んだ選択研修を組むことが可能です。

Q 研修の特徴は何ですか？

A 当センターフェローは第58期生を数え、内科、外科ともに、幅広い知識と技術を習得した腫瘍専門医の育成を目指しています。主な診療科をローテーションするシステムを採用し、がん種による偏りなく、薬物療法、手術療法、放射線療法などの実践的知識を身につけられる数少ないがん医療教育機関です。がん医療のエキスパートによる直接指導を受け、かつ全国から集まる医師との結びつきを通じて、知識・技術、人脈を獲得できます。

Q 関連領域を、ローテーションして研修可能ですか？

A 可能です。フェローコースには関連領域も含め、腫瘍専門医として揺るぎない足場を固めるために必要十分なローテーションが組み込まれたプログラムがあります。領域にかかわらずがん治療に必要な知識、手技を習得するという目的で世界標準のローテーションプログラムを、50年以上前に日本で初めて提供開始した教育病院こそ、国立がん研究センターです。その研修制度は、がん医療が進歩するにつれ重要性を増しています。さらに、フェローコース以外の先生方にも、関連領域を学ぶ機会が提供されています。

Q フェロー 修了後の進路は？

A フェロー修了後、さらに専門性を高めたい方には当院のシニアフェローコースが2年間用意されています。また、当院併設の研究所に引き続き所属し、臨床で得た疑問や着想を研究活動に活かしている先生方もいらっしゃいます。当然のことながら、当院修了後、各大学、研究機関、政府機関、地域のがん拠点病院、他の市中病院に異動され、それぞれの立場で腫瘍専門医として活躍されている方はさらに多くいらっしゃいます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院ロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は、世界最高水準のがん診療、最新の治療法研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点でほとんどがん治療に関する知識、技術がなかった先生方も、研修修了時点には腫瘍専門医としてひとり立ちできるまでに成長します。まずは現在の施設、環境で、内科、外科など基本領域の知識、技術を習得することに専念し、国立がん研究センターでの研修開始後の飛躍の礎を築いてください。

Q 教育環境について教えてください。

A 診療の現場では、頻度の多いがん種から希少がんまで幅広く、かつ他のどの施設よりも豊富な診療経験を、内科治療、外科治療、診断学、すべてのがん医療の局面で実践することが可能です。さらに、100件を超えるカンファレンス（診療科単位、合同カンファレンス等）が毎週開催され、当院研修中の皆さんが常に参加し、プレゼンテーションし、指導医のフィードバックを受けています。その結果、当院研修中もしくは修了後に、ほとんどの先生方が国内外の学会発表、英文・和文論文の執筆の機会に恵まれています。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 当院での研修中、臨床研究、基礎研究、学会発表、論文執筆等、なんらかの学術活動を実践することが可能です。Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 等臨床試験グループをはじめとして、新たな治療法の確立のための臨床試験が数多く実施され、その経験が自らの研究の糧になっています。また、併設された研究所を中心として、豊富な臨床検体を用いた基礎研究を実践する機会にも恵まれています。その結果、フェローの先生方による、国内外の学会発表、英文・和文論文執筆が活発に行われ、きめ細やかな指導医のサポートのもと優れた業績が築かれています。学会参加や論文投稿については必要経費の補助制度も利用可能です（基準有）。

Q フェロー、シニアフェローの給料はどのくらいですか？

A フェローコースの月額は概ね41万円で、シニアフェローの月額は概ね48万円です。これ以外に時間外手当等の手当が付きまます。病院に直結した単身宿舍（有料）を借りることができるため、家賃負担が低減されています。

Q 新専門医制度への対応状況を教えてください。

A 国立がん研究センター中央病院は新専門医制度に対応しています。具体的には、本冊子の10ページに対応状況が取りまとめられています。なお、新専門医制度自体の変更が多い状況が続いておりますため、最新の情報は専門教育企画係（koyoiku-resi@ncc.go.jp）までご相談ください。

ページ	コース	シニア フェロー	フェロー					専攻医
			3年	2年	連携大学院	高度技能医	短期 (6か月から 18か月まで)	
19	外科総合	—	○	—	—	—	—	連携
20	内科総合	—	○	—	—	—	—	連携
22	血液・腫瘍内科総合	—	○	—	—	—	—	—
24	消化器内科総合	○	○	○	○	—	○	—
26	頭頸部がん総合	—	○	○	—	—	○	—
28	脳脊髄腫瘍科	○	○	○	○	—	○	連携
30	眼腫瘍科	○	—	○	—	—	○ (12か月まで)	連携
32	頭頸部外科	○	○	○	—	—	○	連携
34	頭頸部・食道内科	○	○	○	○	—	○	連携＊2
36	形成外科	○	—	○	—	—	○	連携
38	乳腺外科	○	○	○	—	—	○	連携＊1
40	腫瘍内科	○	○	○	—	—	○	連携＊2
42	呼吸器外科	○	○	○	—	—	○	連携＊1
44	呼吸器内科	○	○	○	○	—	○	連携＊2
46	食道外科	○	○	○	—	○	○	連携＊1
48	胃外科	○	○	○	—	—	○	連携＊1
50	大腸外科	○	○	○	—	—	○	連携＊1
52	消化管内科	○	○	○	○	—	○	連携＊2
54	内視鏡科（消化管）	○	○	○	○	—	○	連携＊2
55	消化管・胆膵内視鏡エキスパート	—	—	○	—	—	○	—
56	内視鏡科（呼吸器）	○	—	○	○	○	○	連携＊2
58	肝胆膵外科	○	○	○	—	○	○	連携＊1
60	肝胆膵内科	○	○	○	○	—	○	連携＊2
62	泌尿器・後腹膜腫瘍科	○	○	○	—	—	○	連携
64	婦人腫瘍科	○	○	○	—	—	○	連携
66	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	○	○	○	—	—	○	連携
68	皮膚腫瘍科	○	○	○	○	—	○	基幹／連携
70	血液腫瘍科	○	○	○	—	—	○	連携＊2
72	造血幹細胞移植科	○	○	○	—	—	○	連携＊2
74	小児腫瘍科	○	○	○	○	—	○	—
76	歯科	—	○	○	—	—	○	—
78	緩和医療科	○	○	○	○	—	○	連携＊2
80	精神腫瘍科	○	○	○	○	—	○	連携
82	放射線診断科	○	○	○	—	—	○	基幹／連携
84	放射線治療科	○	○	○	○	—	○	基幹／連携
86	病理診断科	○	○	○	—	—	○	基幹／連携
88	臨床検査科	—	—	—	—	—	○	基幹
90	先端医療科	○	○	○	○	—	○	連携＊2
92	臨床研究支援部門	○	○	○	—	—	○	—
94	遺伝子診療部門	—	—	—	—	—	○	—
96	麻酔・集中治療科	—	—	—	—	—	—	連携
	小児腫瘍外科／総合内科	—	—	—	—	—	—	—

＊1 外科専攻医の受け入れが可能です（外科総合コース所属となります）
＊2 内科専攻医の受け入れが可能です（内科総合コース所属となります）
＊連携大学院コース以外でも、連携大学院制度の利用は可能です。詳細はお問い合わせ下さい

外科総合コース

研修後の進路

	2023年度	2024年度	2025年度
国立がん研究センター（医員、研究員、Physician scientist 等）	0	0	0
大学病院	0	1	0
全国のがんセンター・全がん協加盟施設	0	0	0
市中病院	0	1	1
企業、海外留学等	0	1	0
その他	1	0	0
合計 ※研修継続者、専攻医は除く	1	3	1

プログラム

5 推奨するコース

●フェロー3年コース

研修目的・内容	・ 外科全般の幅広い診療経験をつむこと、また、臨床試験による標準治療確定の過程を学ぶことができます。 ・ 専門医取得のための研修が可能です。（消化器外科専門医、呼吸器外科専門医、乳腺認定医・乳腺専門医、大腸肛門病学会専門医） ・ 国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者等の研究活動の機会も十分確保されています。 ※ 原則として日本外科学会教育研修プログラムに則った研修を行う
研修期間・ローテーション	重点を置く診療科を【呼吸器外科・胃外科・大腸外科・食道外科・肝胆膵外科・乳腺外科】から一つ選択する。 外科及び外科系を、3科以上各3か月以上ローテーションする。 基礎系（病理、診断部など）の診療科を9か月ローテーションする（その他 CCM3 か月必須）。 1年目：原則として CCM を含め基礎系（病理、診断部など）をローテーションする。 2-3年目：外科及び外科系を基本とするローテーション研修を行う。 ※ そのうち一定期間の交流研修を認める ※ 病院の規定に基づき CCM を行う
各科の特色・手術件数など	呼吸器外科：フェローはそれぞれ週3件の手術を担当医として受け持ち、豊富な手術経験を積むことが可能です。 胃外科：開腹・腹腔鏡とともに十分な経験が積めます。ロボット手術についても、第一助手としての経験が豊富に積めます。 大腸外科：開腹・腹腔鏡手術ともに十分な執刀経験が積み、ロボット手術手技も助手を通じて学びます。 食道外科：頸部操作の執刀および 1-2 例の腹腔鏡操作の執刀を目標とします。さらに胸腔鏡操作およびロボット手術の助手を通じて手技を学びます。 肝胆膵外科：肝胆膵領域の画像診断、周術期管理を経験し、肝胆膵外科手術の助手を通じて手技を学びます。6か月間以上のローテーションでは術者も含めて経験を積みます。 乳腺外科：術者としてローテーション期間1単位（3か月間）で約 30 症例を執刀します。

●専攻医コース（連携施設型）

研修目的・内容	・ 日本外科学会専門医取得のための研修を行います。 ・ 呼吸器外科、胃外科、大腸外科、食道外科、肝胆膵外科、乳腺外科等の診療科で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とします。
研修期間・ローテーション	原則3か月から6か月 ※6か月を超える研修を希望する場合は要相談

研修に関するお問い合わせ先

- 教育担当：
- 吉田 幸弘**（呼吸器外科）
✉ yukiyosh@ncc.go.jp
- 林 勉**（胃外科）
✉ tsuhayas@ncc.go.jp
- 塚本 俊輔**（大腸外科）
✉ shtsukam@ncc.go.jp
- 石山 廣志朗**（食道外科）
✉ koishiya@ncc.go.jp
- 水井 崇浩**（肝胆膵外科）
✉ tmizui@ncc.go.jp
- 高山 伸**（乳腺外科）
✉ stakayam@ncc.go.jp

**国立がん研究センター中央病院で
病理診断のスペシャリストに！**

診療科としての人材育成のポイント

病理診断科で全臓器の病理診断を経験することによって、病理専門医を取得し、高度な診断スキルの習得を目指します。希望する特定臓器における診断・研究の専門家を育成します。① 全臓器の病理診断を経験し、病理診断医としての高度なスキルを習得する。② 希望する臓器の専門家を目指し、特定臓器の診断・研究を継続的に行う。③ 臨床病理学的・分子病理学的研究を行い、学会発表・論文作成を行う。

当科の研修は、がん専門病院の特徴を活かした、次のものとなります。① 3か月単位で病理診断科内の全臓器をローテーションし、病理診断を行います。豊富な症例数と多数の病理指導医のもと、稀な腫瘍を含めて多数例の診断を経験することができます。② 各臓器の病理専門家が揃っており、特定臓器の専門家を目指すことが可能です。③ 分子病理学的研究手法の指導を受け、研究者としてのスキルを習得できます。④ 院内の多数の病理一臨床カンファレンスをはじめ、国内学会発表・国際学会発表・英語論文作成などの学術活動を行います。

研修内容（全般）

各臓器ローテート期間には、各臓器担当病理医の指導のもとで切り出しを行い、検鏡・ディスカッションを経て病理診断報告書を作成します。臨床医との術前術後カンファレンスにも参加します。在籍期間を通して、術中迅速診断、生検診断、剖検に参加します。術中迅速診断は年間約1500件と極めて多く、病理専門医試験受験資格取得のための症例経験数を容易にクリアすることができます。また剖検については、施設内外での剖検研修により必要経験数の達成が可能となっています。研究や症例報告など国内外の学会発表や英文論文の執筆も活発に行われており、研修中に指導医のきめ細やかなサポートのもとで学術活動を実践することも可能です。連携大学制度を活用した学位取得も可能です。

専攻医コース（基幹型）（3年）

- 1年目：NCCでの病理研修
- 2年目：連携病院での病理研修
- 3年目：NCCでの病理研修の続き



and/or

取得可能

病理専門医
細胞診専門医

フェロー3年・2年コース

1. がん病理診断技術の向上
2. 特定臓器の専門病理医を目指す。
3. 分子病理学的研究を行う。

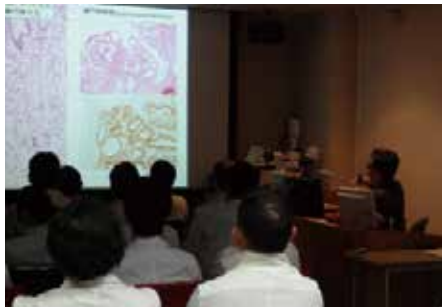
連携大学院制度を活用した学位取得

2025年の検体数

生検17,908件(うち術中迅速1,739件)、手術4,647件、
細胞診10,414件、剖検9件

2026年フェロー在籍数

シニアフェロー2名、フェロー3年コース4名、
専攻医基幹型1名、専攻医連携型1名



<フェローの最近の卒後進路>

当センター、都立駒込病院、国立国際医療研究センター、防衛医科大学、中京病院、東京慈恵会医科大学、筑波大学、東京医療センター、札幌医科大学、広島大学、兵庫県立加古川病院、北海道大学、福岡大学、新潟大学、新潟市民病院、東京大学、JR東京総合病院、済生会川口総合病院、聖路加国際病院、埼玉県立がんセンター、新潟市民病院、京都第二赤十字病院、多摩総合医療センター、慶應義塾大学 他

■ プログラム

§ 推奨するコース

●フェロー3年コース

研修目的・内容	病理診断スキルの向上（細胞診専門医の取得を含む）、病理学的研究能力の向上を目的とする。 特定臓器の専門病理医を目指す。 3年間の院内研修（関連施設での研修も可能）で、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	3年間：腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。臨床病理学的研究に携わることも可能。

●フェロー2年コース

研修目的・内容	病理診断スキルの向上（細胞診専門医の取得を含む）、病理学的研究能力の向上を目的とする。 特定臓器の専門病理医を目指す。 2年間の院内研修（関連施設での研修も可能）で、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	2年間：腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。臨床病理学的研究に携わることも可能。

●専攻医コース（基幹施設型）

研修目的・内容	当科を基幹施設とした研修施設群で病理診断の研修を行い、病理専門医の取得を目指す。(オプション:細胞診専門医の取得) 約2年間の院内研修、約1年間の連携施設での研修を通じて、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	1年目および3年目:原則として院内研修。腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 2年目:原則として連携施設での研修。非腫瘍性疾患等の研修も行う。

§ 副次的なコース

●シニアフェローコース

研修目的・内容	特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高める。 臨床病理学的研究に携わり、研究能力の向上、成果の発信を目指す。 フェローや専攻医の教育に関わる。
研修期間・ローテーション	2年間：希望する専門臓器を中心として病理診断に携わり、専門性を高める。専門領域の臨床病理学的研究を実施する。

●専攻医コース（連携施設型）

研修目的・内容	病理専門研修プログラムに則り、短期間の研修で基本的ながんの診療経験および希望臓器の病理診断経験を積むことを目標とする。
研修期間・ローテーション	原則3か月から6か月：腫瘍診断を主体として、病理診断に携わる。 6か月を超える研修を希望する場合は要相談。

●フェロー短期コース

研修目的・内容	希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方を対象として目的に応じた病理研修を行う。 大学病理部からの派遣として国がんの病理を見てみたいなど、有給短期研修を望む人のためのコースです。
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：病理研修。

☞ 研修に関するお問い合わせ先

教育担当：吉田 正行

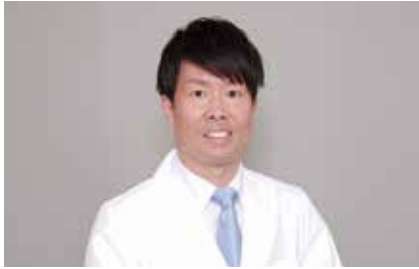
 masayosh@ncc.go.jp

基幹型専攻医を含め、制度が複雑であり、希望者は研修内容について申請前にご相談ください。



シニアフェローからのメッセージ

第36期シニアフェロー 森田 竜一



2015年～ 初期研修:市中病院
2017年～ 後期研修:市中病院(消化器内科)
2020年～ 大学院:市中病院
2025年より国立がん研究センター中央病院 シニアフェロー
(頭頸部・食道内科)

認定内科医(2018年取得)
消化器内視鏡専門医(2021年取得)
消化器病専門医(2022年取得)
がん治療認定医(2022年取得)
がん薬物療法専門医(2023年取得)
遺伝性腫瘍専門医(2025年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

食道がんの薬物療法を勉強したいと考えていました。中央病院は頭頸部・食道内科という、ほかの病院にはない頭頸部がんと食道がんに特化した診療科があり、また学会発表や論文投稿などの点において所属する先生方の activity が高いことも魅力的でした。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

シニアフェローコースは、基本的には2年間当該科に所属して研修します。臨床の診療科ですのでメインは臨床業務ですが、研究棟の先生方の指導も受けながら translational research (TR 研究) や基礎研究ができる環境にあることは大きなメリットであると感じています。

3. 院内の雰囲気、研修環境

日本におけるがん診療の中核に位置する病院ですので、もっと堅い雰囲気かと思っていたのですが、スタッフ・フェローに関わらず先生方は優しく接して下さいますし、診療科間の垣根が低いことに驚きました。



4. 中央病院だから経験できること

圧倒的な症例数を経験することまでは他院でも可能かもしれませんが。その経験から得られるクエスチョンを、TR 研究や基礎研究、または前向き試験などを実際に組み立てて、解決するところまで経験できるのは当院でしかできないと考えています。

5. 研修修了後

私はシニアフェロー期間中に食道がんの前向き試験を行う機会をいただいたので、加藤 健 先生(頭頸部・食道内科長)のご指導のもと、完遂させたいと考えています。



6. 休日の過ごし方・生活環境

月に2-3度の午前中の病棟当番がある以外は、自由に過ごすことができます。私は関西に家族(妻・息子2人)を残して単身で勉強に来ましたので、週末の時間は帰省に使うこともあります。

7. これはイチオシ！

4. で述べたことが全てですが、普段の臨床業務や研究、学会発表まで、自身のやる気次第でどこまでもサポートしていただける当院のような環境は、日本ではここしかないと思っています。

8. 成長を実感したできごと、うれしかったこと

私は医師11年目で、ある程度臨床の経験を積んでから中央病院に来たつもりでしたが、非常に豊富な症例数を経験させていただき、まだ臨床の力がついてきていると実感できたことがうれしく、また驚きました。研究面では主に TR 研究に従事していますが、これまで自分が知らなかった研究手法やアイデアを指導いただけるのが大変勉強になっています。もちろん、1日の限られた時間の中でこなすべきタスクが多いのは身体的にも精神的にも負担がかかることはありますが、フェローの仲間や指導医の先生方のサポートで解決できる範疇ですので、心配には及ばないと考えています。



9. 入職前のイメージとのギャップ

臨床については完全主治医制かと思っていたのですが、時代の潮流をきちんと取り入れて、当番制が敷かれていることに少し驚きました。研究についてはほぼ何もできない状態で来ましたので、全てが新鮮でレベルの高さに圧倒されています。

10. 所属診療科以外でおすすめの診療科

私はもともと消化器内科出身でしたので、消化管内科でも研修させていただきました。消化管内科は2026年に4月に新たに庄司 広和 先生が科長にご就任され、今年度のフェローは6名と、いま中央病院で勢いのある診療科のひとつだと思います。胃がんや大腸がんのほかにも、小腸がん、虫垂がん、消化管神経内分泌腫瘍など豊富かつ多彩な症例に加え、研究棟の先生方との交流もあり臨床・研究の両面で大変勉強になりました。

11. みなさんへのメッセージ

私自身もそうでしたが、中央病院で果たしてついていけるのか、何もできないまま研修期間が終わってしまうのではないかと不安にお感じかもしれません。実際に働いてみると、フェロー同士の結束が強いのはもちろんですが、スタッフの先生方も多くが当院のフェロー出身ですので、非常に親身になって指導してくださいます。勇気を出して、ぜひ中央病院に飛び込んできてほしいと思います。



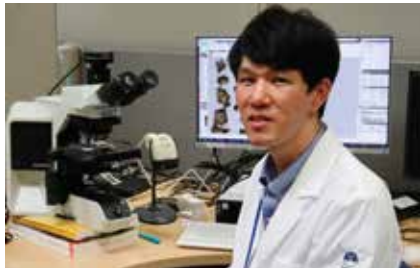
12. 1日のスケジュール例

8:00 ~	病棟回診・診療科カンファレンス(朝)
9:00 ~	病棟業務
12:00 ~	昼休み
13:00 ~	病棟業務
16:00 ~	病棟回診
16:30 ~	診療科カンファレンス(夕)
17:00 ~	自由時間(研究、原稿執筆、学会準備など)



シニアフェローからのメッセージ

第37期シニアフェロー 皆見 勇人



初期研修:大学病院
後期研修:大学病院(病理診断科)

2023年より国立がん研究センター中央病院フェロー
(病理診断科3年コース)
2026年より国立がん研究センター中央病院シニアフェロー
(病理診断科)

病理専門医(2021年取得)
細胞診専門医(2022年取得)
分子病理専門医(2022年取得)

1. 中央病院を選んだ理由

病理診断科フェローとして研修して、豊富な症例数と臨床・研究に対する手厚い指導体制に魅力を感じました。専門性を高めるためにさらなる研鑽を積みたたく、シニアフェローとして継続することを志望しました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

シニアフェローは専門にしたい臓器の病理診断を集中的に行い、その臓器担当スタッフと臨床病理学的研究を行うことが多いです。専門臓器以外にも数個ローテーションで病理診断に携わります。また、全臓器をローテーションするフェローに教える立場となる機会もあります。

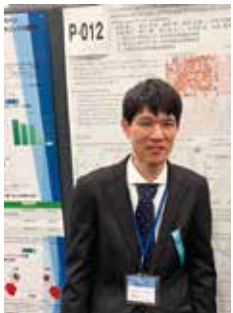
3. 院内の雰囲気、研修環境

臓器担当スタッフから丁寧に指導していただけるので、病理診断や研究の相談がしやすい環境だと思います。また、同世代の病理医が多く、切磋琢磨して刺激を与え合う雰囲気です。病理診断科をローテートしている外科系・内科系フェローも多く、臨床医との情報交換ができるのは当施設ならではの経験だと思います。



4. 中央病院だから経験できること

フェローのときに連携大学院に入学し、病理診断業務を行いながら、大学院の研究相談、学会発表の準備、論文作成を進めています。豊富な症例数を研究に活用できるのは当施設の強みだと思います。連携大学院の授業はオンライン・オンデマンドで行われることが多く、日常業務に支障なく単位取得できます。



5. 研修修了後

血液病理を専門に病理診断業務・研究に携わりたいと思います。

6. 休日の過ごし方・生活環境

休日の病理解剖は当番制です。それ以外は自由なので、仕事とプライベートの区別がはっきりしていると思います。

7. これはイチオシ！

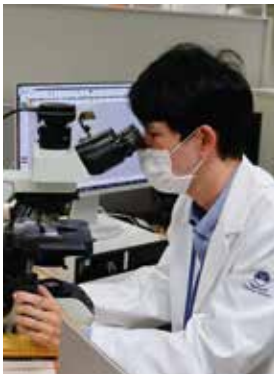
各臓器の病理専門家が揃っているので、目指したい専門臓器を選択できるのは、他の施設ではできないことだと思います。

8. 成長を実感したできごと、うれしかったこと

執筆した論文がアクセプトされたときに達成感があり、また、次の研究の励みになりました。

9. 入職前のイメージとのギャップ

入職前は症例数が多く日々の業務に追われるかと思っていましたが、ローテーションで携わる臓器が決められています。また、迅速診断の当番なども同僚と分担できるので、病理診断業務以外に時間を充てることができます。



10. みなさんへのメッセージ

研修で何をしたいか、何を学びたいか明確であれば、多くの経験ができる環境だと思います。ぜひ一度見学にいらっしやることをお勧めします。

11. 1日のスケジュール例

8:00 ~	組織診断業務、自己研鑽(研究など)
9:00 ~	指導医とのカンファレンス
10:00 ~	組織診断業務、自己研鑽(研究など)
13:00 ~	手術材料の切り出し
14:00 ~	組織診断業務、自己研鑽(研究など)
17:00 ~	臨床医とのカンファレンス
18:00 ~	自己研鑽(研究など)

シニアフェロー募集要項

① 応募資格

原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師

- (1) 国立がん研究センターフェロー(レジデント)研修を修了した者、または修了見込みの者
- (2) 各コースに関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込みの者
- (3) 上記と同等の能力を有する者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：シニアフェロー(がん専門修練医)経験者の再応募は原則不可とする。

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数(予定)

中央病院 20 名程度

③ 出願手続

- (1) 出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

- (2) 締切日(必着)

2026年9月15日(火)

- (3) 必要書類

- ア. 願書(所定様式・A3 判)
- イ. 上司または指導者の推薦状(所定様式)
- ウ. 医師免許証の写し(A4 判に縮小)
- エ. 大学(医学課程)卒業証書の写し(A4 判に縮小)または卒業証明書
- オ. 在職証明書(臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの)
- カ. 業績リスト(英文かつfirst authorの論文のみ・in pressも可)(様式自由・A4)
- キ. 手術経験記載表(所定様式)
(外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること)
- ク. 「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し(修了者のみ)

④ 選考方法

書類審査および面接試験

※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います

※一次選考の結果および面接試験の案内は Email 等により通知いたします

⑤ 選考日

2026年10月8日(木)

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地 5-1-1

⑦ 合格発表

選考日のおおむね 1 か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

2 年間(2027年4月1日～2029年3月31日)

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで高度な知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する(宿日直勤務、2 年目には研究を含む)。

⑩ 処遇等

※変更となる可能性もあります

- (1) 身分 常勤職員
- (2) 勤務条件 週38時間45分(基本勤務:8 時 30 分から 17 時 15 分)
※原則宿日直勤務あり
- (3) 給与 国立研究開発法人国立がん研究センターフェロー等給与規程に基づく
【基本給月額(見込み)】1 年目 479,100 円/2 年目 497,500 円
- (4) 諸手当 業績手当(賞与)、超過勤務手当、住居手当、通勤手当、その他手当
※各種手当は、状況により付与
- (5) 健康保険 厚生労働省第二共済組合
- 年金等 厚生年金、雇用保険
- (6) 宿舍 単身者用の宿舍(有料)空室時利用可能
- (7) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL:03-3542-2511(内線 2138・2203)
E-mail: kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>
国立がん研究センターホームページ>(中央病院・東病院)>医療関係の方へ>フェロー・レジデント募集情報

フェロー（3年コース・2年コース・連携大学院コース・高度技能医コース）募集要項

① 応募資格

原則として以下の全ての条件を満たした医師
（１）採用時に医師免許取得後３年目以降の者
（２）基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの者
歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後３年目以降の者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること
注：シニアフェロー（がん専門修練医）・短期コースを除くフェロー（レジデント）経験者の再応募は原則不可とする。
注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数（予定）

中央病院 27名程度（基幹施設型専攻医を含む）

③ 出願手続

- (1) 出願書類を下記住所までご郵送ください
〒104－0045 東京都中央区築地 5－1－1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係
- (2) 締切日（必着）
2026年9月15日（火）
- (3) 必要書類
ア．願書（所定様式・A3判）
イ．上司または指導者の推薦状（所定様式）
ウ．医師免許証の写し（A4判に縮小）（歯科部門については歯科医師免許証の写し）
エ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4判に縮小）または卒業証明書
オ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）
カ．手術経験記載表（所定様式）
（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）
キ．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

④ 選考方法

書類審査、筆記試験および面接試験（応募状況により一部省略有）
※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います
※一次選考の結果および試験の案内はEmail等により通知いたします

⑤ 選考日

2026年10月6日（火）
注：2年コース応募者について、4月以外の研修開始を希望する場合には調整を行う

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地 5－1－1

⑦ 合格発表

選考日のおおむね1か月後
※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

3年間（2027年4月1日～2030年3月31日）または2年間（基本として2027年4月1日～2029年3月31日）
注：連携大学院コース・高度技能医コースについては上記期間修了後に続けてシニアフェローの研修を行う（選考あり）

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

⑩ 処遇等 ※変更となる可能性もあります

- (1) 身分 常勤職員
(2) 勤務条件 週38時間45分（基本勤務：8時30分から17時15分）
※原則宿日直勤務あり
※CCM研修期間は夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）
(3) 給与 国立研究開発法人国立がん研究センターフェロー等給与規程に基づく
【基本給月額（見込み）】1年目 412,200円／2年目 431,600円／3年目 450,900円
(4) 諸手当 業績手当（賞与）、超過勤務手当、住居手当、通勤手当、その他手当
※各種手当は、状況により付与
(5) 健康保険 厚生労働省第二共済組合
年金等 厚生年金、雇用保険
(6) 宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用可能
(7) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地 5－1－1
TEL:03-3542-2511（内線 2138・2203）
E-mail：kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>
国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞医療関係の方へ＞フェロー・レジデント募集情報

フェロー（短期コース）募集要項

① 応募資格

原則として基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの医師
歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後 2 年目以降の者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：シニアフェロー（がん専門修練医）・短期コースを除くフェロー（レジデント）経験者の再応募は原則不可とする。
フェロー（レジデント）短期コース経験者は通算1年6か月以内であれば再応募可とする。

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者に
ついては採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数

中央病院 若干名

*前年度フェロー（レジデント）短期コース採用実績 中央病院17名

③ 出願手続

出願書類郵送前に、氏名、出身大学、医師免許取得年、現所属機関、希望コース・研修開始月・研修期間を専門教育企画係まで
メールにてご連絡ください。（メール受付締切日は願書締切日の1週間前となります）

原則として研修者数に余裕がある場合の採用となるため、状況により受け付けできないこともあります。あらかじめご了承ください。

(1) 出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104－0045 東京都中央区築地 5－1－1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

(2) 締切日 第1回：2026年10月15日（木）

第2回：2027年1月7日（木）

以降未定

(3) 必要書類

ア．願書（所定様式・A3 判）

イ．上司または指導者の推薦状（所定様式）

ウ．医師免許証の写し（A4 判に縮小）（歯科部門は歯科医師免許証の写し）

エ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4 判に縮小）または卒業証明書

オ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）

カ．手術経験記載表（所定様式）

（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）

キ．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

④ 選考方法

書類審査および面接試験

⑤ 選考日

第1回：2026年10月29日（木）

第2回：2027年1月22日（金）

以降未定（状況により実施）

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室

東京都中央区築地 5－1－1

⑦ 合格発表

選考日のおおむね 1 か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

研修コースにより異なる。（最短6か月、最長1年6か月）

注：通算1年6か月を超える研修延長は不可とする

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

⑩ 処遇等

※変更となる可能性もあります

(1) 身分 常勤職員

(2) 勤務条件 週 38 時間 45 分（基本勤務：8 時 30 分から 17 時 15 分）

※原則宿日直勤務あり

※ CCM 研修期間は夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）

(3) 給与 国立研究開発法人国立がん研究センターフェロー等給与規程に基づく

【基本給月額（見込み）】412,200円 ※任期1年超の場合、2年目 431,600円

(4) 諸手当 超過勤務手当、通勤手当、その他手当

※ 各種手当は、状況により付与

(5) 健康保険 厚生労働省第二共済組合

年金等 厚生年金、雇用保険

(6) 宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用可能

(7) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地 5－1－1

TEL:03-3542-2511（内線 2138・2203）

E-mail：kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞医療関係の方へ＞フェロー・レジデント募集情報

専攻医（基幹施設型・連携施設型）募集要項

① 応募資格

●専攻医（基幹施設型）

以下の全ての条件を満たした医師

- （１）採用時に医師免許取得後３年目以降の者
- （２）専門医制度において中央病院を基幹施設とする基本領域専門研修プログラムを選択した専攻医

●専攻医（連携施設型）

以下の全ての条件を満たした医師

- （１）採用時に医師免許免許取得後３年目以降の者
- （２）専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設の基本領域専門研修プログラムで研修中の専攻医

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

② 募集人数

中央病院 若干名

③ 出願手続

●専攻医（基幹施設型）

- （１）出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104－0045 東京都中央区築地５－１－１

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

- （２）締切日（必着） 2026年9月15日（火）

- （３）必要書類

ア．願書（所定様式・A3判）

イ．上司または指導者の推薦状（所定様式）

ウ．医師免許証の写し（A4判に縮小）（歯科部門は歯科医師免許証の写し）

エ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4判に縮小）または卒業証明書

オ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）

カ．手術経験記載表（所定様式）

（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）

キ．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

●専攻医（連携施設型）

研修開始の３か月前までに基幹施設、専攻領域、専門研修開始年、希望時期・期間をメールにてご連絡ください。

原則として研修者数に余裕がある場合の採用となるため、状況により受け付けできないこともございます。あらかじめご了承ください。

必要書類は上記のうちア・ウ・エ・カ・キとなります。

④ 選考方法

●専攻医（基幹施設型）

書類審査、筆記試験および面接試験（応募状況により一部省略有）

※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います

※一次選考の結果および試験の案内はEmail等により通知いたします

●専攻医（連携施設型） 面談

注：面談の日程は調整後、Email等により通知いたします

⑤ 選考日

●専攻医（基幹施設型） 2026年10月6日（火）

●専攻医（連携施設型） 随時

⑥ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室

東京都中央区築地５－１－１

⑦ 合格発表

選考日のおおむね１か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

⑧ 研修期間

●専攻医（基幹施設型）

３年間（2027年4月1日～2030年3月31日）を基本とし、各専門研修プログラムに則り定める

●専攻医（連携施設型）

原則3か月から6か月とする

※6か月を超える研修を希望する場合は要相談（希望の研修期間に応じて採用試験を実施）注：各学会の定める規定も考慮し調整を行う

⑨ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

⑩ 処遇等

※変更となる可能性もあります

（１）身分 非常勤職員（医師）

（２）勤務条件 週30時間（基本勤務：8時30分から15時30分）

※研修期間・コースにより宿日直勤務あり

（３）給与 国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤医師及び研究員給与規程に基づく

【給与支給額（見込み）】390,000円／月額 ※各種手当は除く

（４）諸手当 業績手当（賞与）、超過勤務手当、通勤手当、その他手当 ※各種手当は、状況により付与

（５）健康保険 厚生労働省第二共済組合

年金等 厚生年金、雇用保険

（６）宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用可能

（７）修了 所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地５－１－１

TEL:03-3542-2511（内線 2138・2203）

E-mail：kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞医療関係の方へ＞フェロー・レジデント募集情報

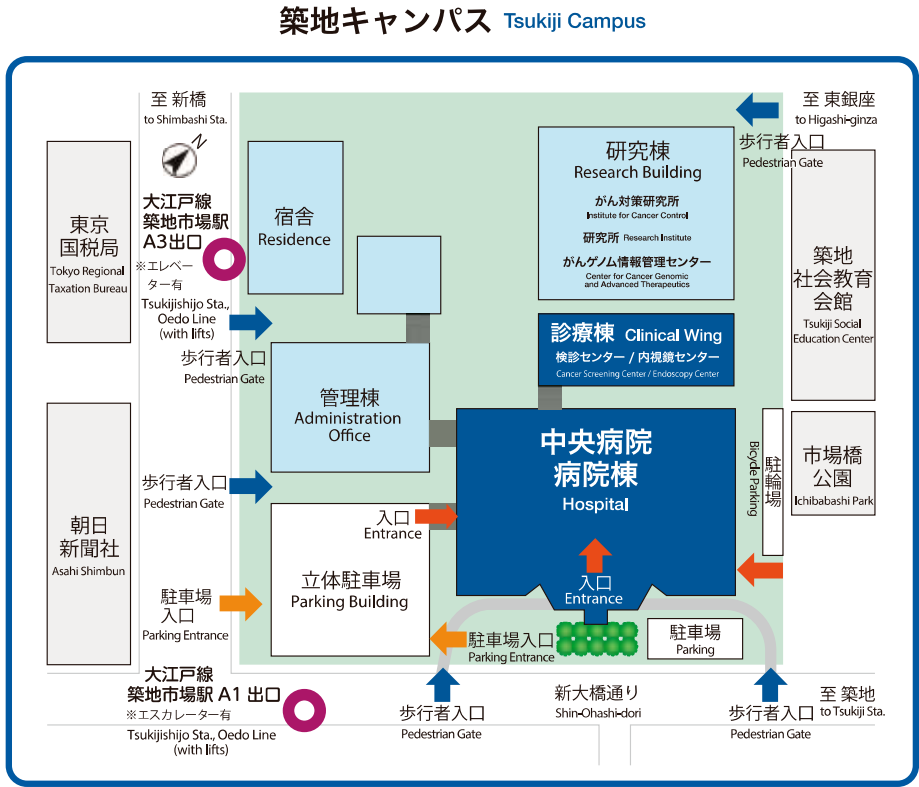
採用試験日程

2027年度 中央病院
シニアフェロー・フェロー・専攻医
採用試験日程

試験の種類	出書類締切日	選考日
シニアフェロー	2026年9月15日（火）	2026年10月8日（木）
フェロー （3年コース・2年コース・連携大学院コース・ 高度技能医コース） 専攻医（基幹施設型）		2026年10月6日（火）
フェロー（短期コース）	第1回：2026年10月15日（木） 第2回：2027年1月7日（木） 以降未定	第1回：2026年10月29日（木） 第2回：2027年1月22日（金） 以降未定（状況により実施）

* 詳しくは募集要項をご覧ください。

交通案内



- 電車
都営地下鉄 大江戸線「築地市場駅」
A1・A3 出口から徒歩 1 分
東京メトロ日比谷線「築地駅」2 番出口、
または「東銀座駅」6 番出口から徒歩 5 分
都営地下鉄浅草線「東銀座駅」
6 番出口から徒歩 5 分
- バス
業 10/ 都 03/ 都 04/ 都 05-1/ 都 05-2（都営）
「築地三丁目バス停」から徒歩 5 分
市 01（都営）
「国立がん研究センター前バス停」から徒歩 3 分
- 駐車場
394 台（30 分まで無料）
- Train
Oedo Line “Tsukijishijyo Station” 1 minute walk from Exit A1 or A3
Hibiya Line “Tsukiji Station” 5 minute walk from Exit 2
Hibiya Line “Higashi-ginza Station” 5 minute walk from Exit 6
Asakusa Line “Higashi-ginza Station” 5 minute walk from Exit 6
- Toei Bus
5 min walk from “Tsukiji San-chome” bus stop
3 min walk from “National Cancer Center” bus stop
- Parking
for 394 (free of charge up to 30 minutes)

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地 5 - 1 - 1

TEL : 03-3542-2511（内線 2138・2203）

E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞医療関係の方へ＞フェロー・レジデント募集情報



<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/>